

## 岩手県東日本大震災津波復興委員会 第21回総合企画専門委員会の概要について

### 1 開催概要

- (1) 日時 平成30年3月20日(火) 15:30～17:30
- (2) 会場 エスポワールいわて 3階特別ホール
- (3) 出席者 委員8名(1名欠席)
- (4) 審議事項等
  - ア 第3期復興実施計画の進捗状況について
  - イ 次期総合計画の策定について

### 2 審議概要

#### (1) 第3期復興実施計画の進捗状況について

[中村委員]

- ・ 復興計画期間の終了にあたり、分野ごとに全体を総括して施策に生かすことが求められる。
- ・ 事業は進んでいるが、被災者、被災地域、被災事業者ごとに復興の進捗に差が出ていることにも配慮すべきである。

[平山委員]

- ・ 海岸保全施設を中心に、2020年度までに復興事業が完了するのか心配している。

[広田委員]

- ・ 進捗率が高まっているのはいいことだが、本来の目的がどれだけ達成できたのか検証することも必要である。

[若林委員]

- ・ 復興の進捗により社会基盤が整ってきたが、これからは整備したインフラをいかに活用するかという視点も重要となる。

[斎藤委員長]

- ・ 移転元の空き地問題など数値化された指標に現れない問題を整理し、対策を打っていくことが必要である。

#### (2) 次期総合計画の策定について

[谷藤委員]

- ・ 人口は3次産業と密接に関係する。新たな商業施設に見合った商圏人口がどの程度なのか見極める作業が必要になってくる。
- ・ 沿岸地域の「なりわいの再生」を進めるにあたっては、産業的な観点だけでなく、個人がどのように仕事を確保し、収入を得るかという観点から施策を進めることも必要である。

[豊島委員]

- ・ 長期ビジョン構成のうち「第2章 理念」と「第6章 政策推進の基本方向」の結びつきが分かりにくいように感じる。

[中村委員]

- ・ 伝承に係る施策を展開するにあたっては、次の災害が起きたときに**他の地域に貢献する**という視点も重要となる。
- ・ 「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の利活用を促進する仕掛けが必要である。

[平山委員]

- ・ 次期総合計画の策定にあたって、**復興部分のボリュームを一定程度確保**するようお願いしたい。
- ・ 防潮堤の設置イコール安全ということではない。復興事業を進めているからこそ、**伝承や教育の重要性は増してくる**。

[広田委員]

- ・ **人口減少に対する危機感**が次期総合計画から見えないのが気にかかる。
- ・ 8＋1の政策分野のうち、社会基盤の検討にあたっては、**ソフト面（組織、体制等）も考慮すべき**である。
- ・ 「未来のための伝承・発信」を柱に立てたことは評価したい。今後施策を展開するにあたっては、**大規模災害が想定される地域に対する支援という視点**も考慮してほしい。
- ・ 復興施策から一般施策へスムーズかつ漏れのない移行をお願いしたい。
- ・ 三陸防災復興博（仮称）については、**そろそろ来訪者の獲得に向けた仕掛けを打って**いかなければならない時期になってきている。

[南委員]

- ・ 次期総合計画の策定を契機に、縦割りの行政の中にあって、関係する部署において**横串で施策を展開**するようなスキームをしっかりと考えてほしい。
- ・ **教育や次世代育成に生かせるもの、メッセージ性があるもの**を添えて、伝承に係る施策を展開してほしい。

[若林委員]

- ・ 「未来のための伝承・発信」は非常によい柱。県の伝承施設と市町村の伝承施設とを**有機的に連携**させてほしい。

[斎藤委員長]

- ・ 災害公営住宅の入居者の高齢化など**阪神淡路大震災の教訓**を今後の対応に生かす必要がある。
- ・ 三陸地域が連携して、どのような三陸にしたいかという**ビジョンを持つ**ことが必要である。
- ・ 一貫経営により繋がった**三陸鉄道を地域でどのように活用**するか考えていかなければならない。